
■ ENEOSホールディングス(5020) 2023年度 ESG 説明会 Q&A

1. 日時 : 2024年3月11日(月)10:30-11:40
2. 出席者数 : 82名(会場16名、オンライン66名)
-

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。末尾に注意事項を記載しています。－

Q. 経営判断のスピード感が課題と感じるが、グループ運営体制の見直しを経て、どのように株主価値の向上につながっていくのか。どのような変化が期待できるのか。

A. 新体制のもとでは、常に社長・CxO間での会話を通じて判断を加速することに加え、HDがポートフォリオ経営を志向することで各社にきちんと目が行き届き、各社の責任も明確になることでコミュニケーションがとりやすくなると考えている。これを経営判断の効率化につなげることで、全体としてスピード感を上げていけると考えている。

(社外取締役) これまでもトラブル対応についてなど、アジャイルに反応できていると感じている。金属のIPO判断等のスピード感はとくに早い印象であり、自社で責任を負いながら、機敏に経営判断をしていると感じている。分社化後は各事業会社に金属同様にスピード感のある経営を期待できるだろう。

Q. 従業員エンゲージメント状況について、具体的な取り組み内容や経営陣が感じたこと、従業員とのギャップやその改善方法は？

A. 社外機関による役員、社員へのインタビューや、先月末を締め切りとした全社員アンケートの結果を分析中。部署によっても回答に違いがあるが、今回集めた意見をまとめ、結果をオープンにして従業員の意見も聞きながら、対話を通じて対策を作っていく。改善策については新年度から動き始めることを目標に3月中を目途に対策をまとめて動き出していきたいと考えている。

(社外取締役) 働き方について、社内講演会の形式で従業員との対話を行った。従業員は総じて日本国内のエネルギー安定供給とエネルギートランジションへの責任感を持っているように感じたが、一方で、それが上司や経営陣に伝わっていないというギャップも感じた。しかし、各従業員が変化へ問題意識を向ける姿勢は健全な責任感の現れとして評価すべきであり、今後の施策の方向性検討および推進にあたって期待できると感じている。

Q. 宮田新社長の選任プロセス詳細と、選任にあたり社外取締役が注目した点はどこか。

A. (社外取締役) 今回の社長の選任において、①エネルギートランジションをビジネスチャンスととらえ、ビジネスモデル構築をリードできる、②基盤事業、とくに製油所トラブルへの迅速・適切な対応ができる、③高い倫理観を持ち、株主はもちろん、取引先、お客様、そして社員等のすべてのステークホルダーからの信頼を回復できる、という3点を「あるべき社長像」として取締役全員と確認した。その上で社内出身の取締役計6名において最適候補者をそれぞれ複数名推薦のうえ、指名諮問委員会に提示してもらった。その後、人材DDや本人インタビューにて、リスクの評価を実施し、性格診断テストにより行動特性・潜在的リスクも調査した結果、宮田新社長の選任に至った。宮田新社長は、倫理観だけでなく、戦略的・合理的な判断力や、思考・行動力、改革・挑戦意欲が優れていることに加え、2023年12月19日公表の元社長の不祥事後の社長代行としての手腕の発揮や、社内外への迅速な情報発信によ

る、当グループの動揺の最小化にかかる対応も高く評価に値することから、社外取締役全員一致の上、指名諮問委員会で宮田新社長を取締役に答申し、取締役会で承認された。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響
- (3) 法律の改正や規制の強化
- (4) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。